

**生徒の英語による
パフォーマンスを
高めるための指導資料**

令和2年1月
東京都教育委員会

目次

生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための指導資料

～実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うために～

- 1 新学習指導要領の実施に向けて P2
 - (1) 新学習指導要領における中学校外国語科の目標と「見方・考え方」
 - (2) 言語活動とは
 - (3) 生徒が「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」ことができるようになるための単元構成 (例)

- 2 対話的な言語活動を中心に据えた授業の在り方 P6
 - (1) 帯活動の指導の工夫 (Q & A 活動、チャット活動)
 - (2) オーラル・イントロダクション
 - (3) 教科書等のテキストを「話すこと」につなげていく指導例

- 3 「話すこと」におけるパフォーマンス評価の実施例 P21
 - (1) 『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 (小学校、中学校 (案)) (国立教育政策研究所 令和元年 11 月) について
 - (2) 「話すこと [やり取り]」のパフォーマンステストの実施例 (国)
 - (3) 「話すこと」のパフォーマンステストのテーマ設定例 (指導教諭等の実践より)

- 4 新学習指導要領における「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の指導 P35
 - (1) 「聞くこと」の指導について
 - (2) 「読むこと」の指導について
 - (3) 「書くこと」の指導について

参考資料

- ① Q & A 活動、チャット活動の指導例 P41
- ② 新学習指導要領に対応した学習指導案の書式例 P65
- ③ 外国語教育に関する参考資料一覧 P72
- ④ 「外国語活動・外国語の目標」の学校段階別一覧表 P74

生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための指導資料 ～実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うために～

新学習指導要領を理解する

新学習指導要領

1 新学習指導要領の実施に向けて(P2)

- (1) 新学習指導要領における中学校外国語科の目標と「見方・考え方」
- (2) 言語活動とは
- (3) 生徒が「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」ことができるようになるための単元構成(例)

聞く・読む・書く

4 新学習指導要領における「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の指導(P35)

- (1) 「聞くこと」の指導について
 - (2) 「読むこと」の指導について
 - (3) 「書くこと」の指導について
- ※「話すこと【やり取り】」及び「話すこと【発表】」については右の2、3を参照

英語によるパフォーマンスを高める指導を実践する

～生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための指導～

言語活動の充実

2 対話的な言語活動を中心に据えた授業の在り方(P6)

- (1) 帯活動の指導の工夫(Q&A活動、チャット活動)
- (2) オーラル・イントロダクション
- (3) 教科書等のテキストを「話すこと」につなげていく指導例

パフォーマンステスト

3 「話すこと」におけるパフォーマンス評価の実施例(P21)

- (1) 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校、中学校)(案)」(国立教育政策研究所 令和元年11月)について
- (2) 「話すこと【やり取り】」のパフォーマンステストの実施例(国)
- (3) 「話すこと」のパフォーマンステストのテーマ設定例(指導教諭等の実践より)

コラム

生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための言語活動を支える取組

授業を英語で行う際のポイント(P5)

生徒の定着の程度を把握するアイデア(P9)

リキャストの工夫(P11)

小学校におけるSmall Talk(P20)

会話を継続・発展させるために必要なこと(P43)

【参考資料】

Q & A 活動
(P41)

Q & A

チャット活動
(P56)

チャット

学習指導案例
(P65)

指導案

CD収録
参考資料一覧(P72)

はじめに

平成 29 年 3 月に告示された新学習指導要領では、中学校外国語科において、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を授業の中心にする」、「授業を実際のコミュニケーションの場面とするため授業は英語で行うことを基本とする」、「生徒が即興で英語によるやり取りを行う力を育成する」ことが示されており、指導方法の大きな改善が求められています。

東京都教育委員会では、平成 29 年度から令和元年度までの 3 年間、公立中学校英語科全教員を対象として「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための研修」を実施しました。本研修では、特に「話すこと」のうち、[やり取り] のパフォーマンステストを中心に、新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導方法の改善に関する内容を扱いました。

本研修時に、新学習指導要領の全面実施に向けた受講者の意識についてアンケートを行った結果、どの項目についても受講者が指導に不安を感じていること、特に、「即興で話す力を高めていく指導」については、60%の受講者が不安を感じていることが分かりました。

● 「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための研修」アンケート結果より

【新学習指導要領における内容についての意識】

項目	「あまり不安はない」 「不安はない」の合計	「とても不安がある」 「不安がある」の合計
即興で話す力を高めていく指導について	40%	60%
既習事項に繰り返し触れさせる指導について	85%	15%
語彙数の増加について	55%	45%
文法事項の増加について	56%	44%
「授業は英語で行うことを基本とする」について	61%	39%

(3 年間で本研修を受講した 2,145 名の中学校英語科教員を対象)

本冊子は、即興で話す力も含め、生徒が「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動」を充実させ、生徒の英語によるパフォーマンスを高めることをねらいとしています。主に「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための研修」で講師を務めた指導教諭等の実践を基に、中学校外国語科の指導方法・評価方法の改善を図るための基本的な考え方や方策について具体的に解説します。皆さんが本冊子を通じて理解した内容を実践し、授業を充実させていくことを期待しています。

1 新学習指導要領の実施に向けて

(1) 新学習指導要領における中学校外国語科の目標と「見方・考え方」

＜新学習指導要領 中学校外国語科の目標＞

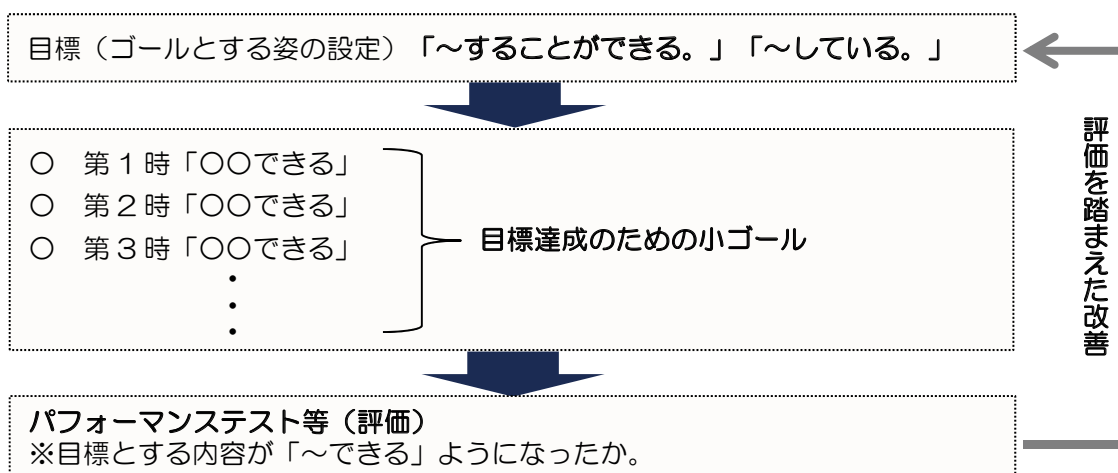
外国語によるコミュニケーションにおける**見方・考え方**を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの**言語活動を通して**、簡単な情報や考えなどを**理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力**を次のとおり育成することを旨とする。

新学習指導要領においては、各教科等に**見方・考え方**が示されています。この**見方・考え方**というのは、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方です。つまり、「各教科等を学ぶ本質的な意義」を示しています。

外国語科においては、「**外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること**」とされており、文法・語彙等の知識の理解にとどまらず、**外国語で表現し伝え合うために**、学習した語彙・表現などを目的や置かれた場面・状況等に応じて「再構築」、つまり**自分のものとして活用すること**が求められています。

生徒が外国語で表現したり伝え合ったりする力を育成していくためには、各単元において、「英語で何ができるようになるか」を考え、目標を「～できる」の形で設定し、単元の最後には、示した目標に対して何ができるようになったか、生徒のパフォーマンスを評価することが必要です。授業は、ゴールとして設定した生徒の姿から逆算し、どうしたら生徒が求められているパフォーマンスを発揮できるようになるかを考えて構成します。そして、パフォーマンステスト等の評価結果を踏まえて、生徒に成果や課題を明らかにさせ、次に向けた目標をもたせるとともに、教師は生徒の課題を解決できるよう指導の改善を図っていきます。

● 外国語教育における目標、学びの過程、評価の構造



単元構成のポイント：

- この単元は英語で何ができるようになるための単元なのか目標を定める。
- 目標達成のために一回一回の授業で何を行うか考える。
- 実際に生徒が目標を達成したか評価する方法（例えば、面接・スピーチ・エッセイ等のパフォーマンステストなど）を考える。
- 評価を生かし、次の授業への改善をどう図るか考える。

（２）言語活動とは

新学習指導要領中学校外国語科の目標（前ページ参照）においては、**言語活動を通して**資質・能力を育成することが示されています。授業においては、学習内容の定着を図るための発音練習や音読、例文の単語を入れ替えて表現する活動なども必要ですが、このような練習そのものを授業のゴールとするのではなく、生徒が**言語活動**を通して表現したり伝え合ったりすることができるよう指導していく必要があります。

新学習指導要領において、外国語科における**言語活動**とは「**実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う**」活動を指します。言語活動を充実させることが、生徒の英語によるパフォーマンスを高めていくための鍵となります。言語活動を充実させるための視点としては、「**コミュニケーションの目的（何のために伝え合うのか）・場面（どこで話しているのか）・状況（相手は誰なのか）**」を設定した活動を行うことや、「**授業は英語で行うことを基本とする**」ことなどが挙げられます。

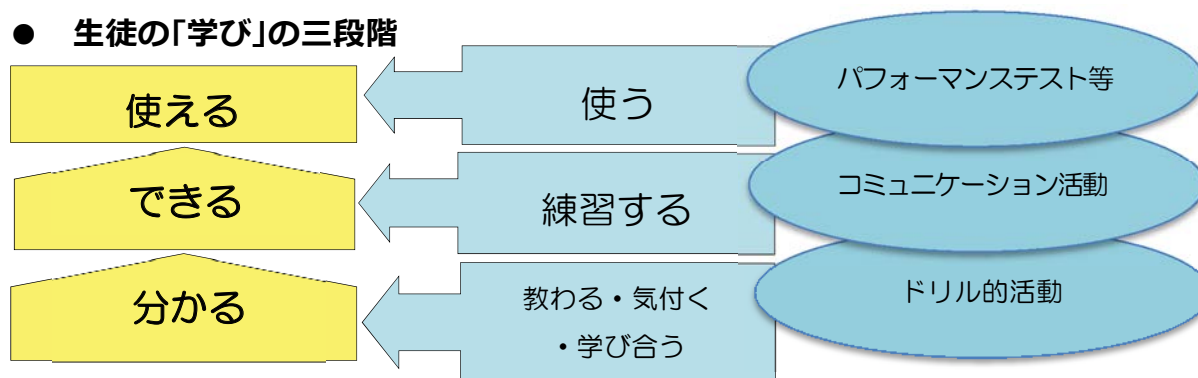
例えば、私たちが日本語で自己紹介をする場合であっても、新しく赴任した学校の同僚の前で自己紹介をする時と、生徒の前で自己紹介する時とでは内容や伝え方が異なります。私たちは**コミュニケーションの目的・場面・状況等**に応じて、表現内容や方法を選択しています。このように、**授業の中で生徒に英語の使用場面や伝える相手を意識させ、実際に学んだ内容をコミュニケーションの目的・場面・状況等に応じて活用させる機会をつくっていくことが、言語活動の充実につながります。**

また、「**授業は英語で行うことを基本とする**」ことで授業を英語による言語活動を中心としたものにすることも必要です。生徒が英語に触れる機会を確保し、授業全体を英語を使った実際のコミュニケーションの場面としていきましょう。

(3) 生徒が「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」 ことができるようになるための単元構成（例）

実際の授業では、生徒は、教わったり、気付いたり、学び合ったりすることで「分かる」ようになり、練習することで「できる」ようになります。「使える」ようになるためには、授業で実際に英語を使ってみることが必要になります。教えただけでは、生徒は英語を「使える」ようになりません。

● 生徒の「学び」の三段階



「使える」段階まで生徒のパフォーマンスを高めていくためには、前述のように、まず、単元の目標に合わせて「英語で何ができるようになるか」ゴールを定め、それを見取るためのパフォーマンステスト等を計画し、スモールステップで授業を組み立てていくことが効果的です。最初にゴール（「英語で何ができるようになるか」＝「目的・場面・状況等」を設定したパフォーマンステスト等）を生徒に提示し、ゴールに向かって授業や活動をしていくという方法をとることで、授業中の各活動に取り組む必然性が生まれ、生徒の主体性を引き出すことができます。

パフォーマンステストの設定には、教科書で扱われる新出学習事項の「機能」を考える必要があります。「機能」とは、その語彙や表現、文法事項等を身に付けることによって、生徒が「英語で何ができるようになるか」ということです。例えば、三人称単数現在形であれば、「機能」は、「第三者の日常的な行為の説明」です。生徒は第三者の好きなことやすること、持っているもの、知っていること等を説明することができると思います。加えて、教科書の各ページの話題やテーマ、学校で設定している Can-Do リストの内容などを考慮してパフォーマンステストの内容を決めます。

パフォーマンステストの内容に合わせ評価規準も検討します。授業の中で指導する内容を基に評価規準を定めることを通して、指導と評価の一体化、すなわち、授業とゴールのつながりを明確にすることができます。学年の進行に伴い、表現の質が上がっていくことについても考慮し、評価規準にその学年で求める生徒の姿を反映させていくことも大切です。

● スモールステップを踏んだ指導例（三人称単数現在形を扱った単元の例）



I 「分かる」（上表 第1時、第2時、第5時）

- ・ これまでに学習してきた、一人称や二人称の be 動詞や一般動詞を使った説明文、第三者についての be 動詞を使った説明文などを復習する。
- ※ 新出表現だけでなく既習の表現も、設定した場面に応じて繰り返し使わせていく。
- ・ オーラル・イントロダクション等で新出文法の「機能」を理解する。 など

II 「できる」（上表 第3時、第6時）

- ・ 正しい表現で言えるように練習をする。
- ・ 正しい表現で書けるように練習をする。
- ・ 教科書の文（スピーチ例）を聞いて／読んで内容を考える。 など

III 「使える」（上表 第4時、第7時、第8時、第9時）

- ・ 自分が紹介したい人の好きなもの、好きでないものなどを書いてみる。
- ・ スピーチのリハーサルをする。 など

◆ コラム「授業を英語で行う際のポイント」

- 短く、簡単に、ゆっくりと話すこと
- 教師が話し過ぎないこと
- 生徒が興味をもつ話題を設定すること
- 教師が英語を話すことを楽しむこと

大切なのは、
生徒の発話を
引き出すことです。



平成 29 年度、30 年度「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための研修」講義より

2 対話的な言語活動を中心に据えた授業の在り方

新学習指導要領においては、**対話的な言語活動**を一層重視する観点から「話すこと」の技能が「話すこと [やり取り]」と「話すこと [発表]」に分けられました。どちらの領域においても、「**即興**」で**話す**ことが求められています。

教科書の内容理解、音読、リスニングやパターン・プラクティスといった従来から行われている活動を生かしながら英語で授業を行い、既習事項を活用させながら生徒に即興でやり取りをさせるといった、「即興」につながる対話的な言語活動（Q&A 活動やチャット活動など）を加えていくことが必要です。

本章では、従来の活動に対話的な言語活動を加えていく指導の例を紹介します。

【この章で紹介する内容】

■ 従来の活動に対話的な言語活動を加えていく指導の例

（1）帯活動の指導の工夫（Q&A活動、チャット活動）

- ◆ コラム「生徒の定着の程度を把握するアイデア」
- ◆ コラム「リキャストの工夫」

（2）オーラル・イントロダクション

（3）教科書等のテキストを「話すこと」につなげていく指導例

- ◆ コラム「小学校における Small Talk」

■ 従来の活動に対話的な言語活動を加えていく指導の例

活動		内容
※ → は、本冊子で紹介しているページを表しています。		
ウォームアップ・帯活動	ウォームアップ	英語での挨拶や簡単なやり取りなどを通じて、楽しく英語を使う雰囲気をつくる。
	帯活動 (Q&A 活動、チャット活動等) → P8	既習事項を繰り返し使用させる機会をつくり、活用を通じて定着を図る。
教科書本文に関する指導	教科書の内容についての導入 (オーラル・イントロダクション) → P13	生徒との口頭でのやり取りを通じて、教科書の話題に関して生徒が知っていることを引き出し、興味・関心を高めたり、教科書本文の場面設定・状況等を導入したりする。
	リスニング 参考 「聞くこと」の指導について → P36	本文の概要等を理解するために、聞き取りのポイントを示した上で、リスニングを行う。
	教科書の内容理解 参考 「読むこと」の指導について → P38	教科書の内容について、必要な情報を読み取ったり、概要・要点を捉えたりする活動を行う。
	音読	新出文法事項や語彙・表現の定着を図り、生徒が自分の考えや気持ちを表現する活動において、それらの表現等が活用できるようにする。
	新出文法事項等の導入 (オーラル・イントロダクション) → P14	生徒との口頭でのやり取りを通じて、新出文法事項等を導入する。単元の終わりに「英語で何ができるようになるか」を示し、生徒とゴールを共有する。
	表現活動に向けた本文や語彙の導入 (教科書等のテキストを「話すこと」につなげていく指導例) → P16	生徒が自分の考えや気持ちを表現する活動に向けて、教師とのやり取りを通して本文を導入したり、語彙を導入したりする。
評価	パフォーマンステスト → P21	目標及び評価規準を生徒に明確に示した上で、生徒に英語で表現させる。
振り返り	振り返り	「何ができるようになったか」を生徒に振り返らせるようにする。生徒一人一人が自分の成果と課題を理解し、次の学習に主体的に取り組めるようにするとともに、教師はパフォーマンステスト等の評価結果を踏まえて指導の改善につなげる。

(1) 帯活動の指導の工夫 (Q & A活動、チャット活動)

生徒の即興で話す力を育成するためには、帯活動(毎回の授業の最初などに、10分程度の短時間、継続的に行う活動)において既習事項を活用させ、即興で話す活動を継続して行うことが効果的です。

● Q & A活動 ※使用するワークシート例等は、P42~P55 参照

ここでは、Q & A活動を「決められた質問と応答の形から始め、やり取りを少しずつ広げていく練習をさせる活動」として紹介します。

Q & A 活動	<ul style="list-style-type: none">・ 会話においてよく使われる疑問文とその応答の方法を習得させ、即興でやり取りをする力の土台を育成する。・ 生徒はペアで、疑問文とその応答のリストなどを基に質問役と応答役の役割を交代しながら、一定時間やり取りを行う。
-------------------------	--

Q & A活動では、生徒の定着の程度に応じて様々な疑問文の形を扱うことで、口頭でのやり取りに必要な疑問文やその応答の形を身に付けさせることができます。特に、新しいクラスになった年度当初(4月~5月)にQ & A活動を設定すれば、活動に必然性を生むことができます。また、生徒がQ & A活動に慣れてきたら、質問に回答する際にさらに文を付け加えさせることでやり取りが広がり、Q & A活動からチャット活動(自由に会話を継続させる活動)へとつながっていきます。

● チャット活動 ※使用するワークシート例等は、P56~P64 参照

ここでは、チャット活動を「相手の発話に応じながら自由に会話を継続させる活動」として紹介します。

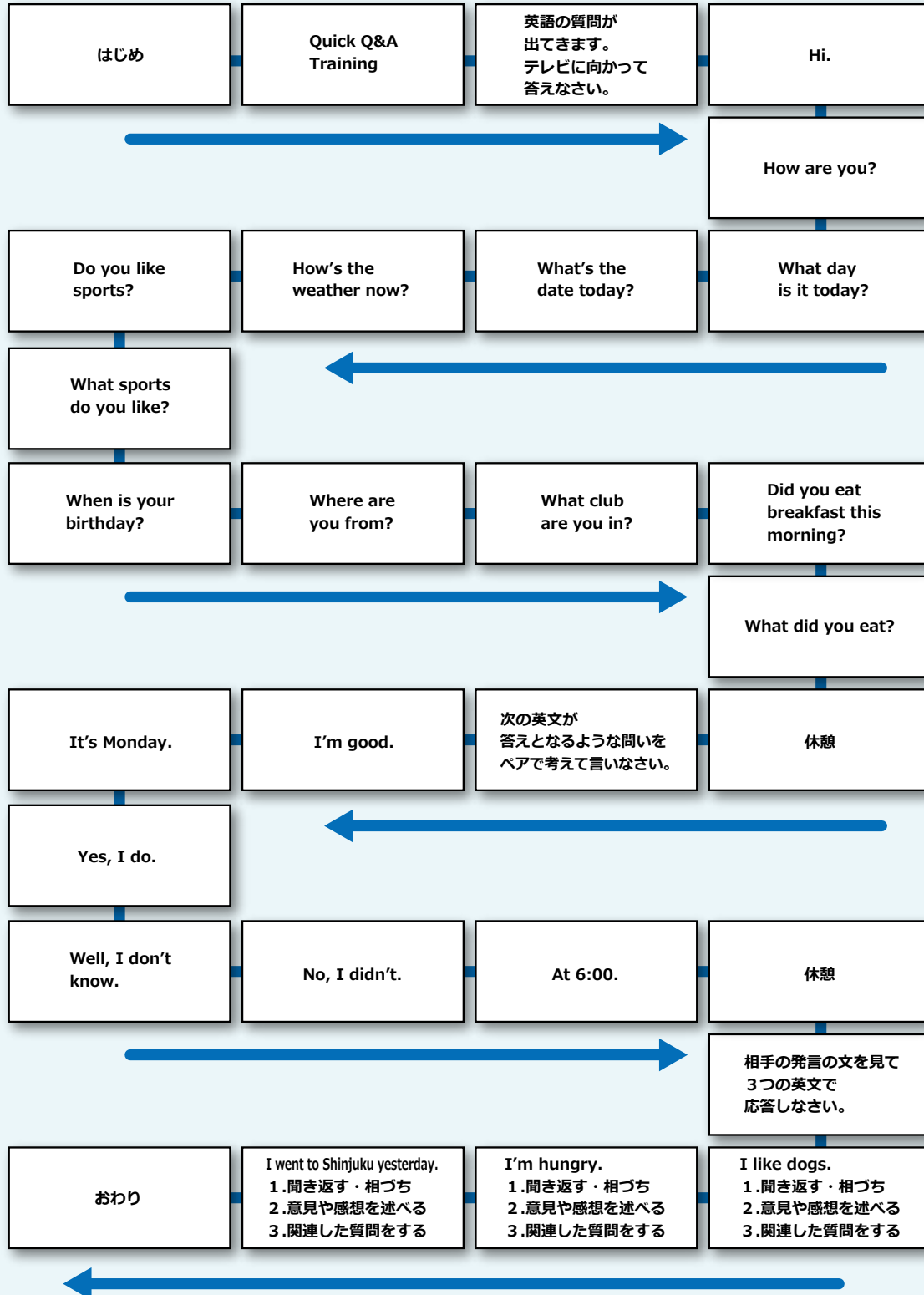
チャット 活動	<ul style="list-style-type: none">・ 生徒が自分自身のことを話す機会をもたせることで、即興でやり取りする力を育成する。・ 生徒は指定された話題などについて、ペア又はグループで、「聞き返し」や「相づち」、「つなぎ言葉」や「感想」など、会話を継続・発展させるための表現を活用しながら、一定時間自由に即興での会話を継続する。
--------------------	---

チャット活動は、生徒がQ & A活動等を通じてある程度やり取りに必要な表現(疑問文とその応答など)を習得した後に設定します。生徒が既習事項を活用してその場で話す状況を設定することで、即興で話す力を身に付けさせることができます。生徒が即興で会話を継続していくことを目指し、同じ話題でつなげるやり取りの回数を、学年に応じて2往復、3往復以上などと指定することで、表現の質が上がります。

◆ コラム「生徒の定着の程度を把握するアイデア」

Q&A 活動を踏まえ、指示と質問を次々にスライドで示し、生徒に答えをテンポよく言わせる活動です。定型的な質問に応答する力を付ける活動に取り組みせながら、生徒の即座に質問に応答する力の定着の程度を把握することができます。

※画面に表示するスライドの例（生徒の習熟の程度に応じて内容は調整します。）



● 活動後の振り返り

各活動では、個人・ペア・グループなど活動形態を工夫しながら、活動のねらいに応じた振り返りを行います。例えばチャット活動であれば、円滑なやり取りにつながった表現を全体で確認したり、ワークシートを活用させたり、生徒に英語で言えなかった表現などを調べさせたりすることが考えられます。

【各活動の振り返りの視点（例）】

- ・ 発音に自信のもてない語や表現はなかったか。
- ・ 英語で言いたかったけれど言えなかった表現はなかったか。
- ・ 既習事項を用いて表現できる内容はないか。
- ・ やり取りの中でつなぎ言葉や相づちを使用することができたか。
- ・ 関連した質問をするなどして話題を広げられたか。

また、表現する内容の正確さを高めるためには、対話的な活動の後や、英作文を行う際などの機会を捉えて指導していきます。

【生徒自身に誤りに気付かせる工夫】

- ・ 活動中に生徒の誤りを教師がメモしておき、共通する誤りを活動後に学級全体で共有する。
- ・ 誤りのある英文を板書して、生徒に間違い探しなどをさせる。
- ・ 添削する際に教師がヒント（誤りの箇所の下線を引く、吹き出しを付けるなど）だけを示し、生徒自身に何が誤りか考えさせる。
- ・ 教師が添削した英文を、もう一度ワークシート等に写させることで、生徒に自分の課題に気付かせる。

◆ コラム「リキャストの工夫」

生徒の発話の正確さを高めていくためには、生徒の発話に対してどのようにフィードバックをしていくかが重要になります。例えば、次のような生徒とのやり取りがあった場合、☆には①～④のような返し方が可能です。

T: What will you give your grandmother for her birthday?

S: Give... flowers?

T: ☆

- ① 生徒の発話を誘導する You... will...?
- ② もう一度言い直しをさせる Will you say that again?
- ③ やり取りとして継続させる Sorry... you will give her some flowers?
- ④ 生徒の誤りを正して教師が言い直す You will give her some flowers.

「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査報告書（中学校 英語）」より

④のように、教師が生徒の言おうとしている内容を受け止めながら、やり取りを中断せずに、正しい形の英語でリキャストして（言い直して）いけば、生徒自身の文構造等への気付きを促していくこともできます。

ただし、④は教師の訂正によって生徒の話す意欲をそがない一方で、正しい形を生徒に返した後もやり取りが継続されるため、生徒が誤りに気付かない場合があります。生徒に誤りを意識させたい際には、例えば、次のようなやり取りが考えられます。

【授業始まりの Teacher Talk で前置詞に気付かせる例】

T: When will we have the chorus contest?

S1: October tenth.

生徒に分かりやすいよう、下線部を強調して発音する。

T: On October tenth.

That's right. We will have it on October tenth.

Ss: On October tenth.

この文は、生徒に文(We will have it on October tenth.)でリピートをさせてもよい。

T: Yes. Are you excited? ...

(2) オーラル・イントロダクション

オーラル・イントロダクションは、既習の語彙や表現、生徒がもっている予備知識を活用しながら、絵や写真等を用いて、新たな題材や言語材料などについて教師が口頭で導入する活動です。生徒に、語彙や表現、文法事項等の知識や題材で扱うテーマを理解するための知識を与えたり、題材の概要を理解させたりすることができます。また、生徒とのやり取りを取り入れることで、授業が英語によるコミュニケーションの場となり、教師がゴールイメージを示したり、生徒が話す場面を設定したりすることができます。

● オーラル・イントロダクションを準備していく上での留意点

- 教科書本文等で扱うテーマ、新出事項・既習事項（語彙や表現、文法事項等）を把握する。
- 視覚情報（板書、絵・写真など）を効果的に活用しながら、既習事項を踏まえて生徒が理解しやすい表現を用いた発話や発問を考えるなど、生徒が内容を類推できるようにする。
- 新出事項を含め、重要な表現は繰り返してリピートさせる。
- 生徒が音声に集中できるよう、英文を書いて示すことはできるだけ避ける。
- あくまでもイントロダクション（導入）なので、100%の理解を求めない。
- オーラル・イントロダクションが長過ぎたり、教師が一方向的に情報を与えるものになったりしないようにする。

● 教科書の本文に関するオーラル・イントロダクション（例）

- 題材：英語落語の小話を実際に読む単元
- 教具：P C、大型モニター、プレゼンテーションソフト（スライドを表示）
- 概要：生徒の興味・関心を高めながら本時で扱う題材（落語）につなげていく指導例

■ 波線部は、本時で導入する題材について発話している部分

T: Before reading a story, let's talk about Japanese traditional entertainment.
 (performing arts に「舞台芸能」とルビの付いた画面を見せながら)

Do you know any Japanese traditional performing arts?

OK. Talk in pairs. (ペアで 30 秒程度やり取りをさせる。)

題材の「落語」に合わせた
オーラル・イントロダクション
のテーマ

<生徒同士のやり取りの終了後>

やり取りを通じて生徒の知っていることを引き出す。

T: What kind of Japanese traditional entertainment did you talk about?

S1: 歌舞伎

生徒が答えられそうな内容について質問し、話題を引き出す。

T: *Kabuki*, I see.

(事前に用意した写真の中から、歌舞伎の写真を画面に示す。)

Kabuki actors wear beautiful costumes. Any other ideas?

S2: 能

T: *Noh*. You mean this?

(事前に用意した写真の中から、能の写真を画面に示す。)

S2: Yes. *Noh*.

T: Thank you. This is *noh*. *Noh* actors wear masks.

(全員に向けて) Do you know this?

(狂言の写真を画面に示す。)

Ss: 狂言

T: Yes, this is *kyogen*. *Kyogen* is a performance of a funny story or comedy.

How about this? (人形浄瑠璃の写真を画面に示す。)

Ss: (「浄瑠璃」「人形ですか。」)

T: This is *Ningyo-joruri*. It is also called *bunraku*. It's a kind of puppet show.

Can you guess the last one?

(落語家が演じているテレビ番組の写真を画面に示す。)

Ss: 落語! ○○! (落語を扱ったテレビ番組の名前を言う。)

T: ○○! (テレビ番組の名前を繰り返す。) Yes, this is *rakugo*.

It is a kind of storytelling. Today, you're going to read a rakugo story. Eigo Rakugo.

Now let's check our today's story.

本レッスンの題材につなげていく。

● 新出文法事項に関するオーラル・イントロダクション（例）

- 導入する文法事項：to 不定詞（名詞的用法）
- 題材：「将来の夢」についてのスピーチ発表を行う単元
- 教具：P C、大型モニター、プレゼンテーションソフト（スライドを表示）
- 概要：to 不定詞を用いた英文を導入しながら、単元のゴールである「将来の夢」のスピーチの参考となるように、教師自身の夢について紹介していく指導例

■ 波線部は、本時で導入する文法事項（to 不定詞）を用いて発話している部分

T: What's your dream, S1?

S1: Fashion designer.

新出文法事項（to 不定詞）の導入

T: You want to be a fashion designer. Thank you. What's your dream, S2?

S2: えーと、シェフ

新出文法事項（to 不定詞）の導入

T: You want to be a chef. Why?

S2: I like cook and eat.

新出文法事項（to 不定詞）の導入

T: Oh, you like to cook and to eat. Thank you.

（画面に Dream と書かれたスライドを表示して）

You talked about your dream.

Now, I'm going to talk about my dream.

（画面にアルプスの山々と鉄道が写っている写真を示して）

What can you see?

Ss: (「Train.」「富士山」)

T: Is this Japan?

Ss: (「No.」「違う。」)

T: No. Where is this?

Ss: (「なんだろうあの山」「ヨーロッパ？」)

T: You're right. It's in Europe.

You can see the Alps here. What countries is it in?

Ss: (「フランス」「ドイツ」「イタリア」「スイス」)

T: (画面にスイス国旗を表示して) Where is this?

S3: あ、スイス。

[次ページに続く]

- T: Yes. It's Switzerland. My dream is to visit Switzerland.
I want to go to Switzerland. Why do you think I want to go to Switzerland?
- Ss: (「山がきれいだから。」「〇〇〇に会いたいから。」)
- T: I like mountains very much. I want to climb this mountain.
 (画面にマッターホルンの写真を示して)
 It is in Swiss Alps, and what's the name?
 (写真の中の山を指して) This one.
- S4: ヒマラヤ
- T: Oh, Himalaya is in Asia. (山を指しながら) It's Matterhorn.
I want to climb Matterhorn. (スキーをしている写真を示して)
In Switzerland, I also want to try skiing. I like skiing.
In Switzerland, I want to enjoy some food.
 Switzerland is famous for ... what food, S5?
- S5: Cheese?
- T: (チーズの写真を示して)
 That's right. I love cheese. So, I want to eat cheese in Switzerland.
 This is my dream. (Dream と記されたスライドを出して)
 Now, let's talk about our dream today.
 (画面に「本時のゴール I can tell my friends about my dream.」を表示する。)
 This is today's goal.

(3) 教科書等のテキストを「話すこと」につなげていく指導例

オーラル・イントロダクションを行った後には、教師と生徒の英語によるやり取りにより、教科書等のテキストの語彙や表現に慣れ親しませたり、実際に語彙や表現を活用させて定着を図ったりして、「話すこと」の活動につなげていくことができます。

ここでは、テキストに「Welcome to Tokyo Basic」を用いて指導する例を紹介します。

● 本項で扱う「Welcome to Tokyo Basic」の内容

○ 扱うテキスト

「Welcome to Tokyo Basic」 “Topic 2 Bentos” Tokyo Information

Wonderful Bentos in Tokyo

In Japan, there are many different types of bentos. People make bentos at home, and bring them to school or to work. These days, character bentos are very popular. A character bento is a bento that looks like an animal or a character from an anime. You can also buy bentos at train stations. We call this type of bento *ekiben*. There are different *ekiben* in different parts of Japan, and they use special foods from these places.

※ 日本にある様々な弁当（キャラクター弁当や地元の食材を使った駅弁など）について扱った文章

「Welcome to Tokyo」について

「Welcome to Tokyo」は、日本及び東京の伝統文化、歴史等の理解の促進、英語によるコミュニケーション能力の伸長、東京 2020 大会に向けた国際理解教育の推進を目的として、東京都教育委員会が平成 27 年度に作成した都独自の英語教材です。



● テキストの内容を理解させながら、本文を導入する例



- 使用する教材・教具
 - ・ テキスト
 - ・ ピクチャーカード（テキストの内容を示した写真・イラスト）
 - ・ フラッシュカード（ポイントとなる語彙や表現を記載したもの）
- 教師と生徒のやり取り（インタラクション）の例

■ テキストに書かれている順番に、ピクチャーカードを黒板に貼り出しておく。

■ 波線部は、内容理解に関わる答えを生徒から引き出している部分

■ 青字は、テキストにある英文を発話している部分

（教師が、好きな弁当や思い出など、題材に関するオーラル・イントロダクションを行った後で）

T: Look at this picture. (ピクチャーカードを指して)  

What are these?



S1: Bentos.

T: Yes. They are bentos. **In Japan, there are many different types of bentos.**
 (different)のフラッシュカードをフラッシュさせ、生徒にリピートさせる。
 (different)のフラッシュカードを黒板のピクチャーカードの下に貼る。)

And we bring them to... where?

S2: School.

T: That's right. **People make bentos at home, and bring them to school or to work.**

T: (ピクチャーカードを指して) Do you know this type of bento?  

S3: Character bento.

T: Good. **These days, character bentos are very popular.**
 (popular)のフラッシュカードをフラッシュさせ、生徒にリピートさせる。
 (popular)のフラッシュカードを黒板のピクチャーカードの下に貼る。)

T: What does this character bento look like?
 (ピクチャーカードを指して) It looks like a character or an...?

S4: An animal. (以下同様にテキストの最後まで行う。)

➡この後、音読や黙読、テキストの内容に関して質問させ答えさせるなどの活動を行い、理解を深めさせたり、フラッシュカードを用いた活動（次ページ参照）で語彙や表現に繰り返し触れさせたりする。

【Q&A 活動のやり取りの例】

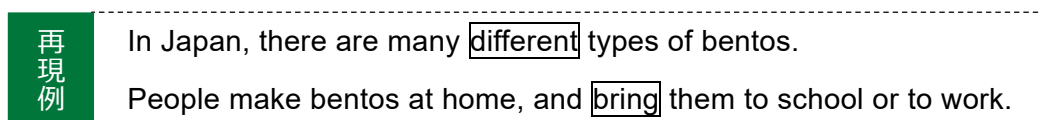
Q1: What is a character bento?	Q2: Where can we buy <i>ekiben</i> ?
A1: It's a bento that looks like a character or an animal.	A2: We can buy them at train stations.

● テキストの内容に関連したイラストや写真の内容を表現させる活動の例

- 使用する教材・教具
 - ・ ピクチャーカード（テキストの内容を示した写真、イラスト）
 - ・ フラッシュカード（ポイントとなる語彙や表現を記載したもの）
- ※ 音読等を十分に行い、生徒がテキストの英文に十分慣れ親しんだ後で行う。
- テキストの英文を再現させるために提示するピクチャーカードとキーワードの例

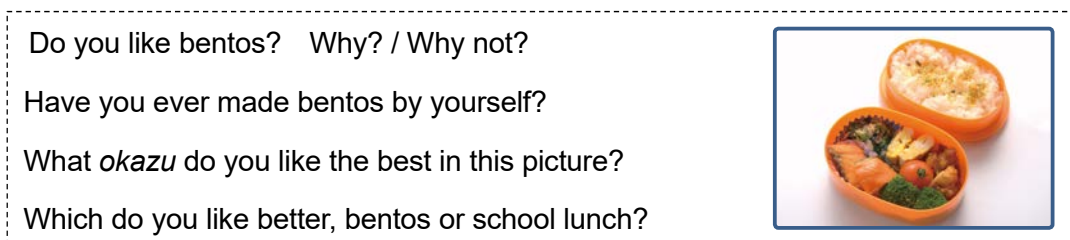


「Welcome to Tokyo Basic」 “Topic 2 Bentos” Tokyo Information のテキスト（本冊子 P16）のうち、上記のピクチャーカードに該当する英文（以下 内の英文）を、ピクチャーカードとキーワードを手掛かりに再現させます。

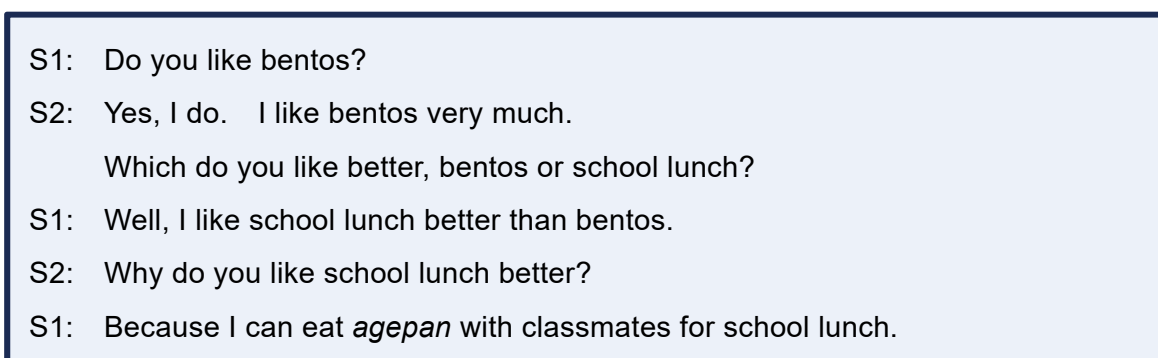


● テキストの内容に関連したイラストや写真を基に生徒同士でやり取りをさせる活動の例

- 使用する教材・教具
 - ・ ピクチャーカード（テキストの内容を示した写真、イラスト）
- ピクチャーカードを基にした生徒同士のやり取りに活用できる質問の例



- ピクチャーカードを基にした生徒同士のやり取りの例




● テーマに関連する発表活動を行うために、語彙を広げる活動の例

(本時の場合は、生徒に好きな弁当を発表させるために、食材・おかずの語彙を導入する例)


- 使用する教材・教具
 - ・ ピクチャーカード (テキストの内容を示した写真、イラスト)
 - ・ フラッシュカード (ポイントとなる語彙や表現を記載したもの)
- 生徒に語彙を発話させていく教師と生徒のやり取り (インタラクション) の例

■ 波線部は、生徒が活用する語彙や表現を導入している部分

■ 青字は、波線部を引き出すために質問している英文

T: Look at this picture. (ピクチャーカードを指して) 

You can see many types of bentos in it.

(様々な食材の入っている弁当のピクチャーカードを指して) 

What kind of *okazu* are there in the bento?

Ss: (「Omelet.」「Fried chicken」「Tomatoes.」「鮭」)

T: That's right. There are many different *okazu* in the bento.

Let's check the names of them.

(ピクチャーカードなどを用いながら、生徒とやり取りし、食材、おかずなどの語彙を発音練習する。)

【食材、おかずの例】 ※生徒の実態に合わせて扱う量を調整する。
 tomatoes, carrots, broccolis, boiled eggs, omelets, fried chicken, sausages, salmon, rice, *umeboshi* (pickled plums), *nori* (seaweed), beans など

What *okazu* do you like the best in your bentos, S1?

S1: I like fried chicken the best.

T: Fried chicken, I see. How about you, S2?

S2: I like salmon the best. I love fish.

T: Oh, you love fish. Thank you for your answer. Now, let's ask each other.

“What *okazu* do you like the best?” Ready? Start.

(生徒がペアでお互いに一番好きなおかずを聞き合う。)

➔ 食材やおかずに関する語彙の活用を促す。

◆ コラム「小学校における Small Talk」

「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」（平成 29 年 6 月 文部科学省）では、小学校外国語科（第 5・6 学年）において、「①既習表現を繰り返し使用できるようにしてその定着を図る」、「②対話を続けるための基本的な表現の定着を図る」ための活動として、テーマに沿った簡単なやり取りを Small Talk としています。

第 5 学年は指導者の話を聞くことを中心に、第 6 学年はペアで伝え合うことを中心に行います。いずれの場合においても、児童はそれまでの経験で蓄積した英語での話す力・聞く力を駆使して、その場で質問をしたり、答えたりします。

小学校第 6 学年 Small Talk の例（冬休みの思い出をテーマとしたもの）

S1: I enjoyed eating *osechi* during winter vacation.

S2: You enjoyed eating *osechi*? That sounds interesting.

S1: How about you?

S2: I enjoyed having a Christmas party. It was exciting.

「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」（文部科学省 平成 29 年 6 月）より

中学校においては、小学校における「話すこと [やり取り]」の積み重ねを踏まえた上で、「関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。」ことが求められています。

小学校と中学校の連携の充実を図るため、文部科学省では「**移行期間における指導資料**」（平成 31 年 3 月）として『**小中接続**』に係る指導資料を作成しています。この『**小中接続**』に係る指導資料には、**中学校第 1 学年の 4 月に 12 時間分の小・中接続単元**として、単元指導計画と展開案（Small Talk 例）が示されています。生徒が小学校で身に付けたことを活用しながら、自分の考えや気持ちを表現していけるよう、中学校入門期の指導を工夫していきましょう。

◇「中学校外国語：移行期間における指導資料（小中接続・帯活動）」（文部科学省）について

http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1414459.htm



3 「話すこと」におけるパフォーマンス評価の実施例

新学習指導要領においては、コミュニケーションの目的・場面・状況等を設定し、言語活動を通して指導していくことが求められています。そして、指導を通じて生徒が身に付けた力を評価するためには、各学校における具体的な評価規準（単元の評価規準等）の設定が必要です。

各学校における具体的な評価規準は、五つの領域別の目標と「評価の観点及びその趣旨」・「内容のまとめりごとの評価規準」（次ページ）を参照しながら、学習指導要領解説や使用している教材、生徒の実態等を踏まえて作成します。したがって、以下のとおり**3 観点×5 領域の合計 15 項目**の評価を行っていくことになります。

	ペーパーテスト等の結果 (活動の観察の結果を加味)		パフォーマンステストの結果 (活動の観察やペーパーテスト等の結果を加味)			観点別 評価	評定
	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと		
知識・技能	[]	[]	P30 面接等 参照	P32 スピーチ等 参照	エッセイ等 (ライティング)		
思考・判断・ 表現							
主体的に学習に 取り組む態度							

ここでは、「話すこと」について見取るパフォーマンス評価の実施例として、「話すこと [やり取り]」と「話すこと [発表]」のパフォーマンステストを紹介します。

【この章で紹介する内容】

- (1) 『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料
(小学校、中学校) (案) (国立教育政策研究所 令和元年 11 月)
について
- (2) 「話すこと [やり取り]」のパフォーマンステストの実施例 (国)
- (3) 「話すこと」のパフォーマンステストのテーマ設定例 (指導教諭等の
実践より)

(1) 『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（小学校、中学校）（案）（国立教育政策研究所 令和元年 11 月）について

● 「評価の観点及びその趣旨」

「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（平成 31 年 3 月 文部科学省）より

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。 	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

● 「内容のまとめりごとの評価規準」 3 観点 × 5 領域 = 15 項目

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（小学校、中学校）（案）（国立教育政策研究所 令和元年 11 月）「第 2 編 各教科等における『内容のまとめりごとの評価規準』を作成する際の手順」より抜粋

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、はっきりと話された文章等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題についてははっきりと話される文章を聞いて、必要な情報や概要、要点を捉えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて聞こうとしている。
読むこと	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた短い文章等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれている短い文章を読んで、必要な情報や概要、要点を捉えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて読もうとしている。
「やり取り」の話しこと	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてやり取りしようとしている。
「発表」の話しこと	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話す技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話している。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて発表しようとしている。
書くこと	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、またはそれらを正確に用いて書く技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、書いている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて書こうとしている。

外国語科における「内容のまとめり」とは、五つの領域（「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」）のことです。この五つの領域ごとに3観点を評価することから、外国語科においては **15 項目の評価規準**を設定することとなります。

これら 15 項目の評価については、必ずしも、各単元ごとに 15 項目全ての評価を記録する必要はありません。しかし、各単元において 3 観点をバランスよく評価すること、学年末に評価を総括する際に 15 項目全ての評価がそろっていることが求められます。

15 項目の評価規準を作成する際の観点ごとのポイントは、以下のとおりです。

「内容のまとめり（五つの領域）ごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

○「知識・技能」のポイント

- ・「知識」と「技能」の二つに分けて記す。
- ・「知識」については、中学校学習指導要領「外国語」「2 内容」の〔知識及び技能〕における「(1) 英語の特徴やきまりに関する事項」に記載されていることを指しており、それらの事項を理解している状況进行评估する。
- ・「技能」について、
 - － 「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」は、実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話したり書いたりして表現したり伝えあったりする技能を身に付けている状況进行评估する。
 - － なお、指導する単元で扱う言語材料が提示された状況で、それを使って事実や自分の考え、気持ちなどを話したり書いたりすることができるか否かを評価することにとどまらず、使用する言語材料の提示がない状況においても、既習の言語材料を用いて事実や自分の考えなどを話したり書いたりすることができる技能を身に付けているか否かについても評価する。
 - － 「話すこと」について、音声の特徴を捉えて話していることについては、特定の単元等で扱うのではなく、「話すこと」の指導全体を通して適宜評価する。
 - － 「聞くこと」、「読むこと」は、実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付けている状況进行评估する。

○「思考・判断・表現」のポイント

- ・「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」は、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話したり書いたりして表現したり伝えあったりしている状況进行评估する。
- ・「聞くこと」、「読むこと」は、日常的な話題や社会的な話題について話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、必要な情報や概要、要点などを捉えている状況进行评估する。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・「主体的に学習に取り組む態度」は、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている状況进行评估する。
- ・具体的には、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」は、日常的な話題や社会的な話題などについて、目的、場面、状況などに応じて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話したり書いたりして表現したり伝えあったりしようとしている状況进行评估する。
- ・「聞くこと」、「読むこと」は、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて話されたり書かれたりする文章を聞いたり読んだりして、必要な情報や概要、要点を捉えようとしている状況进行评估する。
- ・上記の側面と併せて、言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている状況についても、特定の領域・単元だけではなく、年間を通じて評価する。

(2) 「話すこと [やり取り]」のパフォーマンステストの実施例 (国)

東京都教育委員会では、「話すこと [やり取り]」のパフォーマンステストについて、平成 29 年度から令和元年度までの 3 年間、公立中学校英語科全教員を対象として「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための研修」を実施するとともに、平成 29 年度には「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための指導資料 (DVD)」を作成・配布し、周知を図ってきました。

ここでは、令和元年 11 月に国より案が示された『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 (小学校、中学校) (案) (国立教育政策研究所 令和元年 11 月)「第 3 編 単元ごとの学習評価について (事例)【案】」を基に、「話すこと [やり取り]」のパフォーマンステストの今後の方向性について考えていきます。

※『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 (小学校、中学校) (案) は、令和元年 11 月現在のものです。

● 単元ごとの目標及び評価規準の設定 (「話すこと [やり取り]」の例)

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 (小学校、中学校) (案)

(国立教育政策研究所 令和元年 11 月)「第 3 編 単元ごとの学習評価について (事例)【案】」より

○ 「知識・技能」の評価規準について

<知識>

- ・「【言語材料】について理解している。」が基本的な形となる。
- ・【言語材料】には、当該単元で扱う言語材料が入る。
- ・言語材料の種類に応じて、適宜「○○を用いた文の構造を」や「○○の意味や働きを」などの形で当てはめる。

<技能>

(ア)

- ・「【事柄・話題】について、【言語材料】などを用いて、【内容】を即興で伝え合っている。」が基本的な形となる。
- ・【事柄・話題】には、当該単元を中心となる言語活動 (以下「当該単元の言語活動」と言う) で扱う事項や話題等が入る。
- ・【内容】には、当該単元の言語活動で伝え合う、【事柄・話題】に関する事実や自分の考え、気持ちなどが入る。

(イ)

- ・「【事柄・話題】について、【内容】を整理し、【言語材料】などを用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。」が基本的な形となる。
- ・【事柄・話題】には、当該単元の言語活動で扱う、身近な話題等が入る。

(ウ)

- ・「【事柄・話題】について聞いたり読んだりしたことについて、【内容】を、【言語材料】などを用いて述べ合っている。」が基本的な形となる。
- ・【事柄・話題】には、当該単元の言語活動で扱う、社会的な話題等が入る。

※<技能>の(ア)(イ)(ウ)のいずれについても、指導する単元で扱う言語材料が提示された状況で、それを使って事実や自分の考え、気持ちなどを話したり書いたりすることができる状況の評価ではなく、使用する言語材料の提示がない状況において、既習の言語材料を用いて事実や自分の考えなどを話したり書いたりすることができる技能を身に付けている状況の評価することに留意する。

○「思考・判断・表現」の評価規準について

(ア)

- ・「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、簡単な語句や文を用いて、【内容】を即興で伝え合っている。」が基本的な形となる。
- ・【目的等】には、当該単元の中心となる言語活動の中で設定するコミュニケーションを行う目的、場面、状況（以下「目的等」という。）を、「○○に応じて」「○○するよう」などの形で当てはめる。その際、学習指導要領の「言語の使用場面の例」や「言語の働きの例」を踏まえて設定する。（イ）（ウ）も同じ。

(イ)

- ・「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、【内容】を整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。」が基本的な形となる。

(ウ)

- ・「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について聞いたり読んだりして、【内容】を、簡単な語句や文を用いて述べ合っている。」が基本的な形となる。

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準について

(ア)

- ・「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合おうとしている。」が基本的な形となる。

(イ)

- ・「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、【内容】を整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。」が基本的な形となる。

(ウ)

- ・「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について聞いたり読んだりして、【内容】を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。」が基本的な形となる。

※言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている様子については、特定の領域・単元だけでなく、年間を通じて把握する。

「話すこと【やり取り】」イの評価規準の設定例

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準（設定例）	<知識> 助動詞 can や疑問詞 when を用いた文 言語材料 の構造を理解している。	外国の人に「行ってみたい」 目的等 と思ってもらえるように、町 や地域のことについて、 事実 話題 や自分の考え、気持ちなどを	外国の人に「行ってみたい」と 目的等 思ってもらえるように、町や地 域のことについて、 事実 や自分 話題 の考え、気持ちなどを整理し、
	<技能> 町や地域について、 事実 や自分の考 話題 内容 え、気持ちなどを整理し、 助動詞 can や 言語材料 疑問詞 when などの簡単な語句や文 を用いて伝えたり、相手からの質問に 答えたりする技能を身に付けている。	内容 整理し、簡単な語句や文を用 いて伝えたり、相手からの質 問に答えたりしている。	内容 簡単な語句や文を用いて伝え たり、相手からの質問に答えたり しようとしている。

● 「話すこと [やり取り]」のパフォーマンステスト事例

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（小学校、中学校）（案）
 （国立教育政策研究所 令和元年 11 月）「第 3 編 単元ごとの学習評価について（事例）【案】」より

5 パフォーマンステストについて

(1) 内容

「AIの進歩と私たちの生活」（以下「AIの進歩等」という。）に関する記事（article）を読み、
 読んだことに基づいて考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合う。

(2) 準備する課題

次の指示文が印刷された用紙を準備しテスト前に配布する。

「AIの進歩と私たちの生活」というテーマについて、友だちの意見等を踏まえた自分の意見や感想を伝え
 合うことになりました。そこで、下の記事 [Article about AI] の内容に基づいてペアでやり取りをしてく
 ださい。読む時間は3分です。

[Article about AI]

People have created a lot of things throughout history.

These days, AI robots are used in some areas of our daily lives. AI products have changed our
 lives and will change ones in the future, too. It is easy for us to get better lives with AI. There are
 already some AI products around us, and new one will be made. For example, an AI fridge will be
 made in the near future. The fridge will tell us what to cook with the food in it.

AI will change our lives so much in the future.

(3) 採点の基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りのない正しい英文で話す ことができる。	「b」に加えて、自分の考えなど の詳細を話したり、様々な視点か ら質問したりしている。	「b」に加えて、自分の考えなど の詳細を話したり、様々な視点か ら質問したりしようとしている。
b	誤りが一部あるが、コミュニ ケーションに支障のない程度 の英文を用いて話すことがで きる。	Ken のレポートを読んで、①英文 を引用するなどしながら、②AI の 進歩等について考えたことや感 じたこと、その理由などを話したり、 ③相手の考えを求めたり、話 題を広げたり深めたりしながら 対話を継続させている。	Ken のレポートを読んで、①英文 を引用するなどしながら、②AI の 進歩等について考えたことや感 じたこと、その理由などを話したり、 ③相手の考えを求めたり、話題を 広げたり深めたりしながら対話を 継続させようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

※「思考・判断・表現」について、単元を通して指導したことを踏まえて以下の3つの条件を全て満たし
 ていれば「b」としている。なお、生徒の実態や指導の状況を踏まえ、全ての条件を満たしていれば「a」、
 2個なら「b」、1個以下なら「c」とすることも考えられる。

条件 1 : 読んだ英文を引用するなどしている。
 条件 2 : 自分の考えたこと、感じたこととその理由を述べている。
 条件 3 : 相手の考えを求めたり、話題を広げたり深めたりしながら対話を継続している。

※音声に関すること「知識・技能」の基準に含むことが考えられる。その場合、音声に関する指導にも
 重点を置く必要がある。

(4) 生徒のやり取り例及び評価結果

【例1】

ア) 生徒のやり取り例

Student A: What did you think about the article? [条件3]

Student B: I think AI is great. [条件2]

Student A: Why do you think so? [条件3]

Student B: Article write AI fridge. [条件1] No waste food if we can use it. [条件2]

Student A: I think so, too. Article writes AI makes our lives better. [条件1]

Student B: ... My family using AI... AI 掃除機. We can get free time. [条件2] ... You want? Well..., you, you ... (と言って相手の発話を求める手の動きをする。)

Student A: Yes. I want AI... cleaner. AI product is very useful because it helps us. [条件2]

イ) 採点の結果

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
Student A	a	b	b
	正しい英文で話すことができる。	条件1○ (Article writes AI makes our lives better.) 条件2○ (AI product is very useful because it helps us.) 条件3○ (Why do you think so?等)	条件1から3を踏まえてやり取りしようとしている。
Student B	b	c	b
	誤りがあるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文で話すことができる。(No waste food if we can use it.など)	条件1○ (Article write AI fridge.) 条件2○ (No waste food if we can use it.など) 条件3×	質問することはできなかったが、しようとする状況はみられた。(You want? Well..., you, you ...)

【例2】

ア) 生徒のやり取り例

Student C: This article is interesting. [条件1] How about you? [条件3]

Student D: Me, too. AI great. [条件2]

Student C: Yes. Article wrote, "AI products have changed our lives and will change ones in the future." [条件1] I think so, too. AI changed our lives now, not only in the future. [条件2] I using AI in my smart phone. It give, uhm, choose, it choose my song.

Student D: ... I don't use....

Student C: Do you know AI products? [条件3]

Student D: No.

Student C: Do you want AI products like AI fridge? [条件3]

Student D: ... I like AI.

Student C: I want AI products, AI fridge and a new smart phone. AI is good, but has bad points. It can do many work, so many people can't work. [条件2]

イ) 採点の結果

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
Student C	b	a	a
	誤りがあるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文で話すことができる。(I using AI in my smart phone.など)	条件1○ (Article wrote, "AI products have …in the future.") 条件2○ (AI changed our lives now, not only in the future.) 条件3○ (Do you know AI products?等) 条件1～3に加え、別の視点から自分の考えと理由を話している。(AI can do many work, so many people can't work.)	条件1から3に加え、別の視点から自分の考えと理由を話そうとしている。
Student D	c	c	c
	英文で話すことができていない。(AI great.)	条件2を踏まえた発話 (AI great.) はみられるが、他の条件を満たしていない。	条件1と3を踏まえた話をしようとしていない。

● 「話すこと [やり取り]」 のパフォーマンステスト実施後の指導について

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 (小学校、中学校) (案)』

(国立教育政策研究所 令和元年 11月)「第3編 単元ごとの学習評価について (事例)【案】」より

7 パフォーマンステスト実施後の指導について

テストの結果を踏まえて、生徒自身が学習を調整できるように、以下のような指導を行う。

- ・ 生徒一人一人に、それぞれの観点の評価結果を示し、できるようになったことを認める。その上で、自分自身で成果や課題を明らかにさせ、次に向けた目標をもたせる。
- ・ パフォーマンステスト中にみられた各観点の「a」または「b」の発話をいくつか示し、引用している部分や自分の考えなどを理由とともに話している部分に下線を引かせる。そのことにより、どのような発話をするとういかを改めて自覚できるようにする。

※ このような指導の結果、課題を修正しようとしたかどうかを、後日 (学年末等) に振り返らせる。そのことにより、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に活用することも考えられる。

(3)「話すこと」のパフォーマンステストのテーマ設定例（指導教諭等の実践より）

新学習指導要領では、「話すこと [やり取り]」と「話すこと [発表]」に分けて、目標と言語活動例が示されています。ここでは、これらの目標と言語活動例を踏まえながら、指導教諭等の実践に基づいた [やり取り] と [発表] それぞれのパフォーマンステストのテーマ設定例について見ていきましょう。

<新学習指導要領 中学校外国語科 英語「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」の目標>

(3) 話すこと [やり取り]

- ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて**即興で伝え合う**ことができるようにする。
- イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。
- ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。

(4) 話すこと [発表]

- ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて**即興で話す**ことができるようにする。
- イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。
- ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。

<新学習指導要領 中学校外国語科 英語「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」の言語活動例>

エ 話すこと [やり取り]

- (ア) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、**その場で**適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動
- (イ) 日常的な話題について、伝えようとする内容を整理し、自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動
- (ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、読み取ったことや感じたこと、考えたことなどを伝えた上で、相手からの質問に対して適切に応答したり自ら質問し返したりする活動

オ 話すこと [発表]

- (ア) 関心のある事柄について、**その場で**考えを整理して口頭で説明する活動
- (イ) 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動
- (ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分で作成したメモなどを活用しながら口頭で要約したり、自分の考えや気持ちなどを話したりする活動

● 「話すこと [やり取り]」のパフォーマンステストのテーマ設定例

○ 第1学年における「話すこと [やり取り]」のパフォーマンステストのテーマ設定例

パフォーマンステストのタイトル	「先生に自分の好きなことを伝えよう」 【言語活動例との関連：話すこと [やり取り] (ア)】
目標	自分の好きなこと、できることを伝え合うことができる。
扱う文法事項	助動詞 can (青字部分)
実際の言語使用例	<p>■ 生徒は、教師と一対一になり、自分の好きなこと、できることを教師に伝えたり、教師の質問に答えたりしながら、40 秒間会話を継続する。</p> <p><やり取りの例> S: I like music very much. T: Oh, you like music. Can you play the piano? S: Yes. I can play the piano. My favorite subject is music. T: I see. My favorite subject is art. Do you like art, too? S: Yes, I do. I like pictures, and I can draw pictures well. T: Great! (以下、やり取りが続く。)</p>

○ 第2学年における「話すこと [やり取り]」のパフォーマンステストのテーマ設定例

パフォーマンステストのタイトル	「時間があるときにすることを伝え合おう」 【言語活動例との関連：話すこと [やり取り] (イ)】
目標	時間があるときにすることについて伝え合うことができる。
扱う文法事項	to 不定詞 (青字部分)
実際の言語使用例	<p>■ 生徒は、教師と一対一になり、話題として指定された質問から教師とのやり取りを始める。to 不定詞を用いながら、話題に関連した情報を書いたメモを基に、やり取りを1分間継続する。</p> <p><やり取りの例> 指定された質問からやり取りを始める。 S: What do you like to do in your free time? T: I like to watch movies at home. S: I like movies, too. What is your favorite movie? T: ○○ is my favorite movie. I went to the movie theater five times to watch it. S: Five times! You like it very much. T: Yes. What do you like to do in your free time? S: I like to read comics. I have many comics. T: That sounds nice. What manga do you like to read? S: I like to read ○○. I read it every night. (以下、やり取りが続く。)</p>
生徒が使用するワークシート等の記載内容	<p>ワークシートに書かれている「指定された質問」 What do you like to do in your free time? 話題に関して生徒がワークシートにメモした内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ read comics ・ many comics ・ (漫画のタイトル)

○ 第3学年における「話すこと [やり取り]」のパフォーマンステストのテーマ設定例

第1学年・第2学年においては日常的な話題を「やり取り」のパフォーマンステストで扱うことが多いですが、第3学年では社会的な話題（教科書で題材として扱われているもの）について意見を述べたり、自分の意見に対する相手からの質問に答えたりすることもできるでしょう。

ここでは、「話すこと [やり取り] (ウ)」の言語活動に関わるパフォーマンステストのテーマ設定例として、教科書で扱われている題材と、その題材を基にしてパフォーマンステストを実施する際にやり取りの起点となる教師からの質問について、いくつかの例を紹介します。

パフォーマンステストのタイトル	「環境問題について自分の考えを伝えよう」 【言語活動例との関連：話すこと [やり取り] (ウ)】
目標	環境問題について自分の意見を述べたり、相手からの質問に答えたりすることができる。
教科書で扱う題材とやり取りの起点となる教師からの質問の例	【題材】 環境問題について論じた文章 【質問】・ What do you think about environmental problems? ・ Do you agree with (教科書の登場人物) 's idea?

パフォーマンステストのタイトル	「日本の伝統文化について伝えよう」 【言語活動例との関連：話すこと [やり取り] (ウ)】
目標	自分が興味のある日本の伝統文化について述べたり、相手からの質問に答えたりすることができる。
教科書で扱う題材とやり取りの起点となる教師からの質問の例	【題材】 複数の日本の伝統文化について論じた文章 【質問】・ What topic was the most interesting for you? ・ Have you tried (日本の伝統文化) before?

パフォーマンステストのタイトル	「世界平和に貢献した人々について自分の考えを伝えよう」 【言語活動例との関連：話すこと [やり取り] (ウ)】
目標	世界平和に貢献した人物について、自分の考えを述べたり、相手からの質問に答えたりすることができる。
教科書で扱う題材とやり取りの起点となる教師からの質問の例	【題材】 世界平和に貢献した人物について紹介した文章 【質問】・ What do you think about (人物名) 's story? ・ Whose story was the most interesting?

● 「話すこと [発表]」のパフォーマンステストのテーマ設定例

新学習指導要領では、「話すこと [発表]」においても、事前に原稿を用意したり発表練習をしたりすることなくその場で伝えたい内容や考えなどをまとめて口頭で説明するといった、即興で話す活動を実施することが求められています。

ここでは、「話すこと [発表]」の言語活動例のうち、**即興で話す**ことに関連したパフォーマンステストのテーマ設定例を紹介します。

○ 第1学年における「話すこと [発表]」のパフォーマンステストのテーマ設定例

パフォーマンステストのタイトル	「先生を紹介しよう」 【言語活動例との関連：話すこと [発表] (ア)】
目標	新しく学校にやって来た ALT 等に、自分の学校の先生についてその場で紹介することができる。
扱う文法事項	三人称単数現在形（青字部分）
実際の言語使用例	<p>■ 生徒は、ALT 等と一対一になり、複数の「自分の学校の先生の写真」から1枚を引く。引いた写真の先生について紹介する内容を30秒間考えた後、ALT 等に発表する。</p> <p><「学年の英語の先生」の写真を引いた場合の発表の例></p> <p>This is Mr.○○. He is our English teacher. He speaks English well. He plays the piano, too. He comes to school by bike every morning.</p>

パフォーマンステストのタイトル	「自分の好きな○○を紹介しよう」 【言語活動例との関連：話すこと [発表] (ア)】
目標	「自分の好きな○○」について、その場で紹介することができる。
扱う文法事項	実施時点までの既習事項
実際の言語使用例	<p>■ 生徒は、教師と一対一になり、そこで sport, food, music, person, anime character, musician, season, subject, color などの話題が一つ書かれたカードを1枚引く。引いたカードに書かれた話題について30秒間考えた後、教師に発表する。</p> <p><「season」を引いた場合の発表の例></p> <p>I like winter very much. I like winter vacation. We have New Year's Eve and Oshogatsu during the vacation. And, I can enjoy skiing in winter. I like it very much. I love winter.</p>

○ 第2学年における「話すこと [発表]」のパフォーマンステストのテーマ設定例

パフォーマンステストの タイトル	「My ○○ Plan について話そう」 【言語活動例との関連：話すこと [発表] (ア)】
目標	自分の「○○の予定」について、その場で発表することができる。
扱う文法事項	will, be going to~ (青字部分)
実際の言語使用例	<p>■生徒は、学級全体の前で発表する前に、tomorrow, weekend, Golden Week holidays, summer vacation, winter vacation, New Year's Day などの話題が一つ書かれたカードを1枚引く。引いたカードに書かれた話題について30秒間考えた後、学級全体に向けて発表する。</p> <p><「weekend」を引いた場合の発表の例></p> <p>I'm going to visit ○○ museum with my family this weekend. We're going to go there by train. I want to see famous paintings there. I will enjoy them very much. I will also enjoy the museum's souvenir shop.</p>

パフォーマンステストの タイトル	「ストーリーを考えて伝えよう」 【言語活動例との関連：話すこと [発表] (ア)】
目標	その場で考えたストーリーを伝えることができる。
扱う文法事項	実施時点までの既習事項
実際の言語使用例	<p>■生徒は、教師と一対一になり、複数のイラストから2枚を選ぶ。2枚のイラストをつなげたストーリーについて30秒間考えた後、その内容を教師に説明する。</p> <p><「公園で野球をしているイラスト」と「家で食事をしているイラスト」を選んだ場合の発表の例></p> <p>He enjoyed playing baseball in the park yesterday. He got very hungry. After he went back home, he ate a lot of rice, miso soup and fried chicken. He got full and sleepy. He went to bed earlier than usual.</p>

○ 第3学年における「話すこと [発表]」のパフォーマンステスト実施例

パフォーマンステストの タイトル	「The place I want to visit in ○○」 【言語活動例との関連：話すこと [発表] (ア)】
目標	「○○の中で自分が行きたい場所」について、理由とともに発表することができる。
扱う文法事項	関係代名詞（青字部分）
実際の言語使用例	<p>■ 生徒は、学級全体の前で発表する前に、Tokyo, Kanto, Kansai, Kyushu, Shikoku, Japan, Asia, Europe, world などの話題が一つ書かれたカードを1枚引く。引いたカードに書かれた話題について30秒間考えた後、学級全体に向けて発表する。</p> <p><「world」を引いた場合の発表の例></p> <p>The place I want to visit in the world is the United States. It has many famous places for sightseeing. For example, Niagara Falls and Grand Canyon are really famous because they are large and beautiful. I really want to see them in the future.</p>

※ 生徒の発表後に、以下のように生徒とのやり取りを行えば、「話すこと [やり取り]」の評価も同時に行うことができます。

<やり取り①>

教師 : What other countries do you want to visit?

生徒 : I want to visit Australia.

教師 : Why?

生徒 : I want to see many kangaroos and koalas.

<やり取り②>

教師 : Are you interested in nature?

生徒 : Yes, I do. I have visited many mountains and rivers in Japan.

教師 : Do you have any mountains you want to visit in the future?

生徒 : I want to visit the Rocky Mountains in the United States.

4 新学習指導要領における

「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の指導

新学習指導要領では、「聞くこと」、「読むこと」どちらの領域も、「必要な情報」、「概要」、「要点」の三つをキーワードに三つの目標が示されています。

聞いたり読んだりする際にも、**目的・場面・状況等**に応じた聞き取り方、読み取り方を指導することが求められています。また、ただ聞いたり読んだりすることにとどまらず、聞いたり読んだりした後に自分の考えや意見を示したりすることができるよう指導することも大切です。そのためには、話し手や書き手の意図を捉えられるような聞き方や読み方を指導していくことが求められます。

また、「書くこと」においては、「**正確に書く**」こと、「**まとまりのある文章を書く**」ことができるようにすることが示されています。生徒が小学校においてアルファベットの大文字、小文字を活字体で書いたり、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写したりした経験を踏まえ、「書くこと」の指導を行っていくことが求められています。

この章では、従来から行われている指導を更に充実させる視点として、「聞くこと」、「読むこと」及び「書くこと」の指導を取り上げ、紹介します。

【この章で紹介する内容】

- (1) 「聞くこと」の指導について
- (2) 「読むこと」の指導について
- (3) 「書くこと」の指導について

(1) 「聞くこと」の指導について

● 新学習指導要領における「聞くこと」の扱い

「聞くこと」の活動を行う際には、目的・場面・状況等を理解させた上で聞き取らせること、聞いた内容を理解させるだけでなく、目的をもって聞き取らせることが大切です。

<新学習指導要領 中学校外国語科 英語「聞くこと」の目標>

(1) 聞くこと

- ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。
- イ はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。
- ウ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。

「聞くこと」の活動を行う前には、「必要な情報を聞き取る」のか、「概要を捉える」のか、「要点を捉える」のか、聞き取りのポイントを明確に生徒に伝えるようにしましょう。

● 必要な情報を聞き取る活動（例）

店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスなどから、自分が必要とする情報を聞き取る活動

この活動では、聞く際の目的・場面・状況等を明確に生徒に示し、どのような情報が必要か生徒に考えさせた上で、情報全てに集中させるのではなく、必要な部分に集中させて聞き取らせます。

例えば、空港でのアナウンスを聞いて、自分の乗る飛行機の搭乗口や受付の場所、搭乗開始時刻を聞き取ったりする活動や、商品のコマーシャルを聞いて「どのような機能があるのか」、「値段はいくらか」といった必要な情報を聞き取る活動が考えられます。

● 概要や要点を聞き取る活動（例）

友達や家族、学校生活などの日常的な話題や社会的な話題に関する会話や説明などを聞いて、**概要や要点を把握する**活動

この活動では、一語一語や一文一文の意味など特定の部分のみにとらわれることなく、全体を聞き取らせます。概要を捉えさせる場合にはどのような話がされているか考えながら、要点を捉えさせる際には話し手の最も伝えたいところはどこかなどを押さえながら、会話や説明などを聞くように生徒にあらかじめ伝えておくことが大切です。

概要や要点を聞き取らせる指導としては、次のような活動を行うことが考えられます。

【概要を聞き取る活動の例】

- ・ 話の展開を捉えるキーワード（比較・対照を表す語など）に着目して聞く活動
- ・ 5W1Hに着目して聞く活動
- ・ 話の展開を時間軸に沿って整理する活動
- ・ 話の展開を簡単なイラストで表現する活動
- ・ 話の内容を示す絵を、展開に沿って並べ替える活動

【要点を聞き取る活動の例】

- ・ 一つのテーマに沿った話を最初から最後まで聞き、話し手が最も伝えたいことは何か判断する活動
- ・ 共通のテーマに沿った数人のスピーチを聞き、それぞれが伝えたい内容を整理する活動
- ・ ディスカッションの発言内容を聞き、それぞれの意見とその理由をまとめる活動
- ・ 英語のニュースを聞いてその中の重要な情報を聞き取る活動

(2) 「読むこと」の指導について

● 新学習指導要領における「読むこと」の扱い

「読むこと」の活動を行う際は、単に英文の意味を理解させるだけでなく、内容に対する賛否や感想、自分の考えなどを表現できるよう、目的をもって読み取らせることが大切です。

<新学習指導要領 中学校外国語科 英語「読むこと」の目標>

(2) 読むこと

ア 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。

イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。

ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。

「読むこと」の活動を行う前には、「必要な情報を読み取る」のか、「概要を捉える」のか、「要点を捉える」のか、読み取りのポイントを明確に生徒に伝えるようにしましょう。

● 必要な情報を読み取る活動（例）

日常的な話題について、簡単な表現が用いられている広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る活動

この活動では、読む目的や自分が置かれた状況に応じて、全てを読み取ろうとさせるのではなく、自分が必要とする情報を読み取らせませす。例えば、様々な形式のテキスト（広告、メニュー、メモ、メールなど）から、必要な情報を読み取る活動が考えられます。

【必要な情報を読み取る活動の手順例】

手順① 場面設定を理解する（店、公共交通機関など）。

手順② どういう情報が必要な状況であるか考える。

手順③ 自分が必要とする情報と関連する語句に着目して、目的をもって読み取る。

● 概要を読み取る活動（例）

簡単な語句や文で書かれた日常的な話題に関する短い説明やエッセイ、物語などを読んで概要を把握する活動

この活動では、一語一語や一文一文の意味など特定の部分のみにとらわれることなく、まとまりのある文章を最初から最後まで読ませます。生徒が逐語的な読みから脱却し、意味のまとまりごとに英文を捉えることができるようにすることが必要です。文章の中でのそれぞれの情報の関係を表す代名詞や接続詞に注目させながら、文章の流れを理解するた

めのキーワードを見付けさせたり、出来事を時系列に沿って整理させたりするといった指導が考えられます。

概要を読み取らせる指導としては、次のような活動が考えられます。

【概要を読み取る活動の例】

- ・ 文章全体や段落ごとにタイトルを付ける活動
- ・ 話の内容を数文の英語でまとめる活動
- ・ 説明文を読み、手順などを整理する活動
- ・ 物語を読み、起きた出来事を順に整理する活動

※【概要を聞き取る活動の例】(P37)の内容も、「概要を読み取る活動」に活用することができます。

● 要点を読み取る活動（例）

簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで、イラストや写真、図表なども参考にしながら、**要点を把握する**活動

この活動においても、一語一語や一文一文の意味など特定の部分のみにとらわれることなく、まとまりのある文章を最初から最後まで読ませます。例えば説明文の中に含まれている複数の情報の中から、どの情報が最も重要であるかを考えさせたり、書き手が最も伝えたいことは何かを捉えさせたりすることが必要です。また、読み取った内容についての質問や感想、意見や、その理由などを述べる活動へと発展させることも大切です。

要点を読み取らせる指導としては、次のような活動が考えられます。

【要点を読み取る活動の例】

- ・ 音声で十分慣れ親しんだ語句や文を使った英文の場合は、初めから独力で読み取る活動
- ・ 読む時間を設定するなど、短時間で要点を把握する活動
- ・ 絵やグラフなどの資料を含む英文を読み、書き手が伝えようとしている内容のキーワードを選んだり、最も伝えたい一文を選んだりする活動
- ・ 取り出した情報を整理し、総合的に判断し、感想、賛否、自分の考えを話したり、書いたりする活動

(3) 「書くこと」の指導について

● 新学習指導要領における「書くこと」の扱い

「書くこと」の活動を行う際は、文字言語は音声言語以上に正確さが求められることを踏まえて正確に書かせたり、読み手によりよく伝わるよう意識させ、自分の言いたいことにふさわしい表現の方法を工夫して書かせたりすることが大切です。

<新学習指導要領 中学校外国語科 英語「書くこと」の目標>

(5) 書くこと

- ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。
- イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。
- ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

「正確に書く」とは、小学校の外国語科において、大文字と小文字の正しい書き分けや、符号の適切な使用など、「書くこと」に慣れ親しんできたことを踏まえ、文構造や文法事項を正しく用いて正しい語順で文を構成することや、伝えたいことについての情報を正確に捉え、整理したり確認したりしながら書くことを示しています。

また、「まとまりのある文章を書く」とは、文と文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書くことです。「導入—本論—結論」や「主題—根拠や具体—言い換えや要約」など、文章構成の特徴を意識しながら、全体として一貫性のある文章を書くことができるように指導します。「まとまりのある文章」を書かせるには、例えば、学校行事など、具体的で生徒の関心が高く、内容を想起しやすい話題についてまとまりのある内容を扱うことが大切です。生徒がキーワードを整理して書いたり、全体の構成を考えて書いたりするよう、指導することが必要です。